



←Jリーグ 村井満チェアマンとの記念撮影



企画からお客様の手元に届くまでにかかる期間は、2年ほど。それにも拘らず、年間に8000種類もの新商品が世に送り出されている。一つひとつの商品にたくさんの人の想いを乗せて、仕事に臨んでいるそう。



思いがたくさん詰まった、用具の数々

アディダスの創業は1949年。「スポーツへの情熱を通じて、世界をより良い場所にする」というビジョンを掲げ、スポーツ用品の開発・販売を行っている。完成した商品の魅力や、展示会などでスポーツ店に伝え、交渉する仕事をしている田邊和彦さん。



ドキドキ、ワクワク、探検隊！



今回は、抽選で選ばれた小学生20名がアイテム本社に集まり、期待と緊張の表情で訪問先であるJリーグへと向かった。

Jリーグに着くと、村井チェアマンが「こんにちは！」という元気な挨拶と共に登場。「サッカーは、世界中に通じているスポーツ。実は全ての試合で最初に握手をしています。みんなも一緒に、やってみよう」という掛け声で、子どもたち同士ガッツリ握手をして「こんにちは！」

今回の探検先は…
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)
 東京都文京区のJFAハウス内に位置するJリーグ。チェアマン室や約50人のスタッフからなるフロアを中心に企画・運営が行われている。同じビル内には、オフィシャルグッズを扱う「Jリーグエンタープライズ」、映像を管理する「Jリーグメディアプロモーション」、写真を撮影・記録する「Jリーグフォト」など関連会社がある他、「日本サッカーミュージアム」もあり、全国のサッカーファンが日々訪れている。

●探検実施日：2015年3月26日(木)

選手だけじゃない！ Jリーグを支えるいろいろな仕事

続いてはJリーグ選手0日の北澤豪さんが登場。子どもたちから歓声があがる。「ようこそJリーグへ。今日は僕と一緒に、新しい発見をいっぱいしていこう！」



選手を思いやる審判員

西村雄一さんは、6年連続でJリーグ最優秀主審に選ばれた人物。サッカーが大好きで、フェリーの立場から選手の夢をサポートしたいと、この仕事を志したそう。大切なのは、見えたものに対して責任を持って決断する勇氣。批判されるのも仕事のうちだと教えてくれた。「自分で責任を持って正しく行動することをフェアプレーと呼んでいます。それは、リスペクト(お互いを尊重して、大切に思う気持ち)があるからこそできること。試合会場は、たくさんのフェアプレーとリスペクトにあふれているので、一度試合を見に来てくださいね」



チームでゴールを勝ち取る姿勢

待ちに待った北澤さんからのお話。「プロサッカー選手の仕事ってなんだろう？」という問いに「世界を元気にする」「感動を与える」と思い思いの考えを子どもたちは口にしました。「その通りだね。でも、どんなにすごいプレーができて、観客がいらないとお金がもらえない。つまり仕事にならないんだ」だから観客に喜んでもらえるように欠かさず練習をすることが大切、と続けた。



またチームプレーのために、仲間がどんなボールを蹴るか？どのくらいの距離感でパスを出すか？など、日記につけていたそう。パズルのように全てのピースが集まると、「ゴール(目標)に近づけると教えてくれた。「サポーターの想いを背負って、ピッチで戦う。プレーで勇氣や元気を与えられるサッカー選手は、とてもやりがいのある仕事なんだよ」



写真で、サッカーの面白さを伝える

プロサッカー選手の写真を長年撮り続けている伊藤隆司さん。スクリーンに映し出される写真の数々に、子どもたちは「うわあ！すごい！」という驚きを見せた。表情やシーンの一つひとつを狙う、とても繊細な仕事だ。Jリーグでは年間約1000試合もの熱戦が繰り広げられているが、それら全てを写真に残すのはとても重要。



「時にはスタジアムの屋根に登ったり、電光掲示板の上から撮影したり。重いカメラになると数十キロになるので、細心の注意が必要です」カメラマンは芸術性だけでなく、体力勝負でもあるようだ。



「新しい発見がいっぱい」の探検隊

続いてはオフィス見学。グッズを販売しているJリーグエンタープライズ、試合の写真を撮影しているJリーグフォトで話を聞いた。チェアマン室では、特別にチェアマンの椅子に座らせてもらい、記念撮影。

最後はアイテム本社に戻り、今日見たこと、聞いたことを話し合い、保護者の前で発表した。「今まで知らなかった発見がたくさんあった」「二つの試合を開催するのに、多くの人が携わっていたなど、さまざまな感想を聞かせてくれた。サッカーは、選手だけで成り立っているのではない。そこにはいろいろな仕事があって、多くの人の情熱に支えられている。今回の探検で、子どもたちはJリーグに関わる仕事の楽しさを学んだようだ。」

感想コーナー

- サッカーのプレーのうらに、とても多くの仕事があって成り立っているんだと思いました。
- 今日のごと探検隊で、いろいろな仕事のおくぶかさを知ることができました。いい体験になりました。
- 見てだけでは分からない事も知れたのでとてもいい経験になりました。
- Jリーグを支える仕事はたくさんあることにおどろいた。

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ) 事業・マーケティング本部 事業部 樋口 順也さん



今年で9回目となったJリーグでの「しごと探検隊」！講師を務めていただいた皆さんの「サッカーに関する仕事」のお話は、大人が聞いても勉強になるような内容でした。参加した子どもたちがサッカーを観るときは、ユニフォームやスパイク、審判やカメラマンの動きに注目してしまうのではないのでしょうか。今回のJリーグでのしごと探検で「仕事の大切さや素晴らしいさ」を感じてもらえたと思います。探検隊のみんなにスタジアムで会えるのを楽しみにしています！



●「アイテムしごと探検隊」ご協力をお願い
訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子どもたちが「仕事」について考える機会を一緒に提供していただませんか？
お問い合わせはアイテムまで ☎0120-938-989



北澤 豪(きたざわ つよし)氏 プロフィール
海外へのサッカー留学・日本代表初選出を経て、読売クラブ(現 東京ヴェルディ)へ。日本代表としても多数の国際試合で活躍した(Jリーグ戦 265 試合・日本代表国際Aマッチ 58 試合)。03年現役を引退。現在は、日本テレビ系「NEWSZERO」[シューイチ] NHK・Eテレ「やさいの時間」などに出演中。(財)日本サッカー協会理事兼国際委員 日本フットサルリーグ COO 補佐 (最高執行責任者補佐) JICA オフィシャルサポーター

